

2024 年度 個人研究実績・成果報告書

2025 年 4 月 10 日

所属	人間社会学部	職名	教授	氏 名	櫻井 和典
研究課題	つながり力とコラボレーション力、遊び心の関係について				
研究キーワード	つながり力、協働、コラボレーション力、遊び心、セレンディピティ、商店街	当年度計画に対する達成度		3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した	
関連するSDGs項目	8. 働きがいも経済成長も	11. 住み続けられるまちづくりを	12. つくる責任 つかう責任	17. パートナリーシップで目標を達成しよう	
1. 研究成果の概要 これまでと同様に、つながり力（コラボレーション力）、水平思考を呼び起こす遊び心について、企業でなく商店街に焦点をあてて研究した。商店街の個店は、基本的には個人事業が大半である。近年では大型スーパー、ショッピングモールの台頭で、都市部の商店街もその大半は衰退の一途をたどっている。 そのような商店街にどうしたら活気を取り戻せるか。墨田区では行政や各種地元団体、中小企業診断士など様々な人たちがアイデアを持ち寄り、イベント等を開催している。 私たちのゼミでは、若い人たちの初期キャリアを考えていく上で、これからは主体性をもった1人ひとりがなおかつ他者とつながることが大事だということを様々な事例から学んでいるが、それを学び実践する場として、毎年、東向島橋銀座商店街（通称、キラキラ橋商店街）の活性化イベントに参加してきた。 今年も「つまみ食いウォーク」（3月、11月）「キラキラ de ハロウィン」（10月）に参加。毎回、課題として上がっていた「混雑する狭い商店街を自転車走行する人たちへ、どうしたら降りて通行してくれるのか」という問題に、これまでの聴覚情報の提供だけではなく、それと連動した視覚情報を新たに組み入れることで改善されないかという問いをもって取り組んだ。イベント開催中に、自転車走行の調査を行ったところ、かなり改善されることが分った。 つながり力（コラボレーション力）を事例として学ぶだけではなく、実践することでその大切さを立証することができた。 2. 著書・論文・学会発表等 （できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載） 【論文（査読あり）】 とくになし 【著書・論文（査読なし）】 とくになし 【学会発表等】 とくになし					

3. 主な経費

とくになし

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

とくになし

（本文は2ページ以内にまとめること）